

平成31年度（2019）富士見小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

1 基本目標

心豊かで健やかな体を持ち、創造性豊かに自ら学び自ら考え、主体的に判断し行動し、よりよい社会の発展を目指して、たくましく生きる児童の育成を目指す。

2 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- 心豊かで、思いやりのある子ども（心豊かな子）
- よく学び、工夫する子ども（よく学ぶ子）
- 健康で、たくましい子ども（たくましい子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童と教職員の望ましい人間関係を基盤に、児童一人一人のよさや強みを探し、見つけ、それらをほめて伸ばす指導の充実により、児童の多様な個性・能力を伸ばし、互いのよさを生かしながら、支え合い高め合える集団を形成して、すべての児童が自信と誇りの持てる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

教育目標の具現化を図り、教職員が一丸となって居がいと活力のある学校づくりに努める。

1 認め励ます指導を基本とした心の教育の推進

- (1) 自己有用感、規範意識、他者を思いやる心の育成及び組織的な指導体制
- (2) 道徳教育を核に、教育活動全体を通じた豊かな心やたくましい心の涵養

2 基礎・基本な確実な習得と主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善

- (1) 「読む力」「書く力」「聞く力」「話す力」や計算などの指導の充実
- (2) 学習意欲・表現力・思考力等の向上を目指した主体的・対話的で深い学びの研究・実践

3 健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成

- (1) 教科体育、元気っ子チャレンジや各種検定、食育等の校内共通した取組の充実
- (2) 危険を予知し、自らの命を守り抜くための判断力や行動力の育成

4 教職員の資質・能力の向上と働き方に関する改善

- (1) 協働的な同僚性による校内研修や教職員どうしの学び合いの充実
- (2) 全教職員が協働した業務の適正化によるワークライフバランスを意識した働き方の推進

5 地域とともにある学校づくりの推進

- (1) 地域の教育資源を生かした教育活動の展開と家庭・地域と連携した学びの実践
- (2) 学校園における小中の連携と、義務教育9年間を一体とした指導の推進

[宮の原地域学校園教育ビジョン]
「心豊かで輝く子どもの育成」

4 教育課程編成の方針

- ・ 関係法令、国、県、市の方針や重点及び本校の実情や課題を踏まえ、教育目標の具現化を目指した教育課程を編成する。
- ・ 教育活動全般の見直しを不断に行い、児童と向き合う時間の確保に努める、

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>【 学 校 運 営 】 児童一人一人のよさや強みをほめて伸ばす指導の充実</p> <p>【 学 習 指 導 】 主体的に学習に取り組み、生き生きと学び合う児童の育成</p> <p>【 児 童 生 徒 指 導 】 よりよい集団づくりを通じた、規範意識と自己有用感の育成</p> <p>【健康（体力・保健・食・安全）】 体力の向上を目指して運動に親しみ、健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成</p>
--

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】教職員 85%	①一人一人が自由に発言できるような学習集団作りに努めるとともに、学習活動の中で、小集団での話し合いの場を設定し、発言しやすい環境を作り、コミュニケーション力を育成する。 ②課題の提示や教材の工夫をし、さらに主体的に学習に取り組めるようにする。 ③新教育課程の円滑な実施のため、主体的、対話的で深い学びについての実践研究を行う。	B	<p>【達成状況】 教職員 97.6% 保護者 95.3% 児童 94.4%</p> <p>・「みんなのやくそく（学習編）」の共通理解のもと、落ち着いた雰囲気です授業が進められた。児童は、めあてに向かって一生懸命学んでいた。</p> <p>・授業の中で学び合いの場を意図的に仕組んだことにより、児童は自分の思いや考えを意欲的に表現していた。</p> <p>【次年度の方針】 ・学業指導の充実を図り、望ましい集団の中で、個が生きる授業づくりに努める。</p>
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】教職員 85%	①体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ②児童会活動や清掃における縦割り班活動を通して、相手の立場を考えた思いやりの心を育む。	B	<p>【達成状況】 教職員 97.6% 保護者 91.4% 地域住民 100% 児童 93.1%</p> <p>・あたたかで児童一人一人にとって居がいのある学級経営を基盤に、まごころカードなどを通じて他者のよさに目を向けお互いを尊重し合える児童が増えている。</p> <p>【次年度の方針】 ・安心感と居がいのある学級経営を心がけるとともに、道徳科の授業や縦割り班活動を通じて他者のよさに目を向け、思いやり助け合える児童の育成に努める。</p>
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】教職員 85%	①授業と生活の「みんなのやくそく」による日常指導の充実を図るため、職員の共通理解を図るなどして指導を徹底するとともに、個に応じた素早い対応に努める。 ②教師による生活当番活動を実施すると共に、保護者との連携・協力を図り、支援体制を充実させ、個に応じたきめ細やかな対応を心掛ける。 ③道徳教育の充実を図り、全校での道徳の公開授業を実施する。	B	<p>【達成状況】 教職員 95.2% 保護者 91.7% 地域住民 100% 児童 91.2%</p> <p>・「みんなのやくそく（生活編）」を中心に学校生活で必要なルールやマナーについて教職員が共通理解を図り、同一歩調で継続的に指導に当たるなど、学校全体で規範意識の向上に取り組んだ。</p> <p>・下校時や学年集会、全校集会時に学年や学校全体での生活指導を行い、共通理解のもとで指導の徹底を図った。</p> <p>【次年度の方針】 ・規範意識を高め、児童が安心・安全な学校生活を送れるよう、しっかりとした枠組みの中で、継続的な指導を行う。 ・道徳科の授業などを通して、ルールやマナーの意味や必要性について理解を深められるようにする。</p>

<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】教職員 85%</p>	<p>①あいさつボランティアや委員会、学級等で自主的な活動の推進を図るとともに、あいさつ名人の紹介等で挨拶への関心を高める。</p> <p>②日常的に呼名に対する返事等の指導の徹底を図る。</p> <p>③宮の原地域学校園全体であいさつ運動を実施する。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>教職員 95.2% 保護者 83.8% 地域住民 84.6% 児童 94.8%</p> <p>・あいさつ運動やあいさつ名人の活動などを通して、あいさつへの意識は高まっており、校内でのあいさつの習慣はよく身に付いている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・校内でのあいさつの習慣は、よく身に付いている。家庭や地域にも児童への声かけなどの協力を呼びかけていく。</p>
<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】児童 85%</p>	<p>①授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。</p> <p>②道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>教職員 88.1% 保護者 82.0% 児童 90.2%</p> <p>・学期ごとにめあてを立てたり、学級目標を設定したりして、目標に向かって努力している児童を認め励ます指導に努めた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・全ての教育活動において、児童が主体的に目標に向かって取り組めるよう仕組んでいく。</p>
<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】教職員 85%</p>	<p>①運動委員会を中心に元気っ子チャレンジや各種検定に挑戦する場を設定し、目標を持って積極的に運動を実施し、体力向上への意欲を高める</p> <p>②毎日の給食指導を着実に実施したり、給食週間の取組の中で好き嫌いや栄養のバランスについての指導を行ったりする。</p> <p>③危機を予測し自らの命を守り抜く判断力・行動力の育成に向けて、日常指導における安全指導の充実と、交通安全教室、避難訓練等の計画的な実施をする。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>教職員 95.2% 保護者 88.4% 地域住民 92.3% 児童 94.8%</p> <p>・元気っ子チャレンジ等への参加を呼びかけ、運動に親しむ児童が増えた。食に関する指導の結果、給食の残量が極めて少ない。各学級の指導により、安全に気を付けて生活できる児童が増えてきた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・体育科の授業において活動量を確保した授業の展開に努める。</p> <p>・日々の給食指導を共通理解のもと、着実に実施する。</p> <p>・各種訓練だけでなく、事前事後指導の充実を図り、安全に配慮して行動できる児童を育てる。</p>
<p>A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】児童 85%</p>	<p>児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>教職員 88.1% 保護者 82.0% 児童 90.2%</p> <p>・様々な場面を捉えて、児童に目標をもって取り組むように支援に努めた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・継続して取り組むだけでなく、宮・未来キャリア・パスポートを活用しながら、夢を抱いてやり抜く児童の育成を目指していく。</p>
<p>A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】児童 85%</p>	<p>①相手意識・目的意識をもった外国語活動の授業を通して、英語で伝え合う楽しさを感じ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>②外国語活動に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>教職員 100% 児童 94.7%</p> <p>・自分が伝えたいことを意欲的に伝えようとしていた。</p> <p>・校内研修における教材研究により、外国語活動の授業への意識が高まった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・より相手を意識して伝えられるような授業を仕組んでいく。</p>

<p>A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や校外学習等において、学習内容と関連させながら、児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員 90.5% 保護者 61.7% 児童 82.1% ・3年生の社会科のように宇都宮と直結した授業では、宇都宮の良さを実感することができた。 ・身近な地域、宇都宮のよさに気付かせる教師の働きかけが必要。 【次年度の方針】 ・宇都宮学（総合的な学習）を中心に、自分の住んでいるところの良さを意識付ける。</p>
<p>A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①児童が情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ②辞典の使い方や図書資料での調べ方等について学校図書館司書を授業に活用し、図書室利用の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 69.2% 児童 87.1% ・デジタル教科書を中心に、積極的に活用できた。 ・図書館を開館できてからは、意欲的に活用する児童が多かった。 【次年度の方針】 ・授業の中でタブレット型PCの効果的活用を図る。 ・プログラミング教育の計画的な実践に努める。</p>
<p>A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 教職員 85%</p>	<p>①人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ②総合的な学習の時間や学校行事・地域行事等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。</p>	<p>【達成状況】 教職員 97.6% 保護者 91.4% 地域住民 100% 児童 93.1% ・核家族化が進み、地域の方や高齢者とかかわる機会が少ない児童が増えているが、学校行事や学習の中などで地域の方や高齢者と交流する機会を持つことができた。また、そうしたかかわりを通して親近感や感謝の気持ちを持つことができた。 【次年度の方針】 ・学校行事等を通して、児童が地域の方や高齢者と交流する機会をしっかりと設けていきたい。また、その中で地域の方や高齢者から学び、互いに理解を深めることができるよう取り組ませていく。</p>
<p>A 12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①環境教育等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ②過去の災害の具体事例や避難訓練などを通して、防災意識を高め、防災教育を充実する。</p>	<p>【達成状況】 教職員 66.7% 児童 91.3% ・ごみの分別や植物の世話等を通して、環境に対する意識を高める指導をした。 ・より実践的な防災訓練を実施した。 【次年度の方針】 ・清掃活動や自然と触れ合う活動を通して、環境問題に対する意識を高めていく。 ・実践的な防災訓練を継続させる。</p>
<p>B 1 児童は交通ルールを守って安全に登下校している。 【数値指標】 地域 85%</p>	<p>①地域・保護者・教職員が登下校指導を一体となって実施する。週1回集団下校を実施し、隔週で地区下校を実施する。その際、地区担当教員が登下校の様子を聞き、必要に応じて指導したり、一緒に下校したりして安全な登下校ができるようにする。 ②警察スクールサポーター、スクールガードチーフ等の協力を得て、交通安全教室を計画的・継続的に実施したり、警備会社と連携して防犯教室を行ったりして、自他の安全を守り、実践的な理解が深められるようにする。</p>	<p>【達成状況】 教職員 95.1% 保護者 84.6% 地域住民 92.3% 児童 96.5% ・登下校について、困っていること等を担当地区教員と共に解決する時間を定期的に設定することで、安全への意識が高まった。 【次年度の方針】 ・集団下校の方法を工夫するとともに今後とも各団体と連携して取組を推進する。</p>

	<p>B 2 児童は地域や学校のために積極的に働いている。 【数値指標】児童 85%</p>	<p>①校外の清掃活動として、なかよし通りや中央公園の「クリーン活動」を実施し、人のために働く喜びや地域への愛着を高める。 ②保護者とともに、愛校の日の清掃活動を実施する。 ③毎日の縦割り班清掃にめあてを持って取り組めるようにする。</p>	<p>【達成状況】 教職員 95.1% 保護者 76.0% 地域住民 100% 児童 84.2% ・日常の清掃活動や「クリーン活動」・「愛校の日」の活動が、学校や地域のために活動しているという意識付けがやや弱かった。 【次年度の方針】 ・清掃活動や「クリーン活動」・「愛校の日」にめあてを持って取り組めるようにする。</p>
目	<p>A 13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】教職員 85%</p>	<p>①教育相談や個人懇談等を計画的に実施し、一人一人のニーズや実態を踏まえた支援に努める。 ②他学級との授業交換や学年合同活動を行い、広く児童理解・学業指導に努め、児童が教師及び児童相互の信頼関係を深めながら、学校生活が送れるようにする。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% ・教職員は、一人一人の児童理解や日々のかかわりを通して信頼関係の構築に努めている。 ・学年会やケース会議等を通して、職員間で共通理解を図ったり多面的な児童理解に努めたりしている。そうした取り組みを通して児童のニーズを踏まえたかかわりや支援を実践することができた。 【次年度の方針】 ・日々のかかわりや教育相談等を通して、児童理解に努め、適切な支援に努める。 ・職員間の共通理解を通して、様々な教職員が一人一人の児童にかかわり、よりよい信頼関係を築きながら、児童がより良い学校生活を送ることができるよう支援していく。</p>
指	<p>A 14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】児童 85%</p>	<p>①教職員の協力のもと、いじめのない学級経営に努め、楽しい学校生活を送るためのアンケートやいじめアンケート・教育相談の実施により、職員間で共通理解を図り、いじめのない学級づくり、早期発見・早期対応に努め、学校全体でいじめ対策に取り組む。 ②いじめ等対策委員会を設置し、組織的に対応し早期解決を図るとともに、定期的な児童指導報告等を通し学年・学級の実態を把握し、いじめの起こらない環境づくりに努める。 ③携帯電話やメール等、情報モラル教育の強化に努めるとともに、「いじめゼロ強調月間」における取組やいじめに関する各種日より、「宮っ子心の教育」に係る児童会主体の活動のさらなる充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 83.6% 地域住民 100% 児童 99.1% ・日々のかかわりや教育相談、定期的なアンケートの実施を通して、児童の実態把握に十分に努めることができた。また、結果を職員間で共有し、支援や指導に取り組んだ。 ・学級での日常的な指導や道徳科の授業、「いじめゼロ標語」の作成や「いじめゼロ集会」などの取組などを通して「いじめはいけないことである」という児童の意識が高まってきた。 【次年度の方針】 ・次年度も全校体制で継続して取り組んでいくとともに、学校での取り組みを保護者にも知らせる機会を増やすよう努める。</p>
校の姿	<p>A 15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】児童 85%</p>	<p>①児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに認め励ます指導を行い、居がいのある学級経営に努める。 ②教育相談、QU調査、定期的な校内アンケート等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と、校内全体の情報共有を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員 97.6% 保護者 89.4% 児童 97.0% ・児童にとって安心感と居がいのある学級経営に努めている。また、教育相談や定期的なアンケートを通じて児童の実態把握に努め、児童の悩みに迅速に対応している。 ・不登校の兆しを早期発見し、適切な支援を行うことができるよう、学年会やケース会議を実施し、校内全体で対応している。 【次年度の方針】 ・次年度も全校体制で継続して取り組んでいく。居がいのある学級経営に努めるとともに早期発見・支援を徹底していく。</p>

<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】教職員 85%</p>	<p>①外国人児童の実態や家庭環境に応じた日本語指導教師の活用を行うなど、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。</p> <p>②児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導教師との連携を図りながら、外国籍児童に適切な支援ができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き継続して取り組むとともに、安心して学校生活が送れるような支援を行っていく。
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】保護者 85%</p>	<p>①学校行事等において、児童が主体的に活動する場を多く設定し、活気あふれる学校づくりをする。</p> <p>②誰もが居場所を確保できる学級経営に努める。</p> <p>③授業では、学習意欲を高める多様な体験的学習の工夫をする。</p> <p>④縦割り班活動や学年合同活動等、及び日常的な交流活動を実施し、児童が意欲を持って活動できる場を設定する。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員 97.6% 保護者 94.2% 地域住民 100% 児童 93.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動や学年合同活動、日常的な交流活動など充実した活動を設定したことで、一人一人が生き生きと活動できるように支援した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた体験的な学習の場を取り入れたり、児童が主体的に活動できる場を継続して設定したりしていく。
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】児童 85%</p>	<p>①『つかむ』『考える』『深める』『確かめる』という指導過程の授業を展開し、教材研究に努めるなどして分かる授業の充実を図る。</p> <p>②個・学級・学年の実態を把握するとともに、4年生以上の算数でTTや少人数指導など、学習形態の工夫を図り、個に応じたきめ細やかな指導を行う。</p> <p>③教員の指導力の向上を目指し、学年ごとに研究授業と授業後の研究会を実施して、校内研修の充実を図る。</p> <p>④各学年の発達段階に応じて宿題の出し方を工夫したり、「家庭学習のしおり」を家庭に配付したりして、保護者の協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 87.6% 児童 96.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年の算数で、TTや少人数指導を取り入れ、個に応じた指導を行ってきた。 ・本年度は、家庭学習強化週間を設け、家庭学習の習慣化、周知を図った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かる授業の充実を図るため教材研究に努める。 ・家庭学習強化週間の回数を増やす。
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】教職員 85%</p>	<p>①互いを認め合い、いたわり合い、補い合い、励まし合い、高め合う教職員を目指し、課題への対応や行事の運営等に、一丸となって取り組むよう努める。</p> <p>②学校スタッフの職務に応じた指導計画・実施計画の立案に努め、役割を明確にした組織運営に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員 97.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で、可能な限り時間を確保し、共通理解を図ってきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円滑なコミュニケーションのもと、共通理解をさらに深められるように努める。
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】教職員 85%</p>	<p>①学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。</p> <p>②教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。</p> <p>③学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員 76.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別対応が必要な事案が増加傾向にあり、業務時間の増加につながった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種行事の精選・見直しを行い、教職員の負担軽減に向けて改善に努める。

<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】教職員 85%</p>	<p>①中学校教員による6年生への乗り入れ授業の実施や全校一斉の進学先中学校訪問により進学への不安解消や希望・期待感を高める。 ②小中合同の取組を行う。(挨拶運動・給食後の歯みがき・目の体操・サーキット運動・図書館だよりの発行等) ③学校園一斉のお弁当の日の実施や食育だよりの発行、共通献立の実施等を行う。</p>	<p>【達成状況】 教職員 95.2% 保護者 80.8% 地域住民 100% 児童 88.4% ・小中合同の挨拶運動やお弁当の日、中学校からの乗り入れ授業等で地域学校園の取り組みを行った。 【次年度の方針】 ・今後とも小中の連携を図り、新しい方向性も含めて9年間を見通した計画を検討していく。</p>
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】保護者 85%</p>	<p>①地域協議会等と連携を図り、新たな地域人材の募集などを行いながら、学校支援ボランティア(地域探検の補助やボランティアティーチャー、学習支援など)等を活用した授業を計画的・継続的に実施する。 ②地域の県立博物館・中央公園・市立図書館・文化会館・气象台等の文化施設を積極的に授業に活用する。 ③企業等との連携を図った体験型学習を積極的に実施する。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 89.3% 地域住民 100% 児童 92.7% ・県立博物館・中央公園・市立図書館・西消防署・气象台等地域の施設を活用した授業を展開した。 【次年度の方針】 ・地域教材を有効活用した授業を計画的・継続的に実施する。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】保護者 85%</p>	<p>①地域協議会等と連携を図り、新たな地域人材の募集などを行いながら、学校支援ボランティア(地域探検の補助やボランティアティーチャー、学習支援など)等を活用した授業を計画的・継続的に実施する。 ②地域の県立博物館・中央公園・市立図書館・文化会館・气象台等の文化施設を積極的に授業に活用する。 ③企業等との連携を図った体験型学習を積極的に実施する。 【A22 再掲】</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 89.3% 地域住民 100% 児童 92.7% ・出前授業や企業等の活用を図り、オープンスクールで広く家庭や地域に公開した。 【次年度の方針】 ・引き続き地域人材や学校支援ボランティアの活用を図る。</p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】教職員 85%</p>	<p>①日常的に校内巡視を行うと共に定期的な安全点検を実施し、危険個所については迅速な改善や修繕に努める。 ②危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③熱中症対策予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員 95.2% 保護者 92.8% 地域住民 100% ・定期的な安全点検により、速やかに修繕が図れた。 ・様々な設定の避難訓練を実施し、備えを万全にした。 ・感染症の拡大防止に向けて、予防の呼びかけと罹患情報の提供に努めた。 【次年度の方針】 ・ミライムや保健だよりの等を活用して教職員が共通理解を図り、安全に配慮した環境づくりをより一層進めていく。 ・毎月の安全点検を確実にし、機動班等と連携しながら迅速な対応を進める。</p>
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】教職員 85%</p>	<p>①児童が情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。【A10 再掲】 ②各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100% 保護者 69.2% 児童 87.1% ・授業に活用できる図書が充実し、書架に並ぶ本の数が増えた。 【次年度の方針】 ・パズファインダーを作成し、必要な時期に必要な図書を各学年に提供できるようにする。 ・ICT機器を活用した授業の様子を学校だよりや学年だより等で知らせる。</p>

	<p>B3 学校・保護者・地域が一体となって、読書活動の充実に努めている。</p> <p>【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①週2回、クラスごとに落ち着いた雰囲気朝の読書を行うとともに、図書室利用の時間の活用を工夫する。</p> <p>②各学年オープンスペースへの読書コーナーを設置し、読書に親しめる環境を作る。</p> <p>③図書委員や保護者・地域ボランティアによる読み聞かせを月1回実施する。</p> <p>④辞典の使い方や図書資料での調べ方等について学校図書館司書を授業に活用し、図書室をさらに利用できるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>教職員 97.6% 保護者 94.0% 地域住民 100% 児童 64.8%</p> <p>・児童が本に触れる機会が多く設けられていた。</p> <p>・調べ学習の際には、まとめて借りたり、巡回図書を活用したりした。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・本に触れているということを日頃から意識づけさせながら、活用させる。</p> <p>・引き続きボランティアとの連携を図りながら読書活動を推進していく。</p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B4 教職員は、ほめて伸ばす指導に努めている</p> <p>【数値指標】 児童 85%</p>	<p>①長所を伸展させるという視点に立ち、児童のよさや得意なことを見つけ、それをほめて伸ばす指導を行う。</p> <p>②「まごころカード」を活用し、児童のよさや頑張りを積極的に称賛するとともに、豊かな心を育てる小さな親切運動の推進を図る。</p> <p>③学校生活における児童の頑張りを認め、賞賛する表彰制度を設けたり、ホームページや各種たより等を利用したりして家庭や地域に知らせる。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>教職員 100% 保護 89.3% 地域住民 100% 児童 93.2%</p> <p>・日々のかかわりから児童の実態やニーズを教職員が十分に把握し、児童のよさや頑張りを十分に称賛している。</p> <p>・「まごころカード」を通じて児童が他児のよさに目を向け、称賛する姿が多くみられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・本校の特色である。どの学年でも児童の良さを認め、称賛し、自己肯定感を高める指導を継続していく。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<p>1 教育活動全体状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体アンケートでは、指標を達成できた項目は29項目中25項目であった。今年度は評価項目が大きく変わり経年比較ができないので、今年度の取組や達成状況を基に数値指標を検討していきたい。 ・市全体の小学校の結果と比較すると、児童の肯定的回答率は、すべて市を上回っていた。保護者や地域住民については、ほぼ同等か高い傾向がみられる結果であった。 ・市の平均と比較して、一部の項目に教職員の肯定的回答率がやや低い傾向がみられる。このことから、教職員は高い目標をもって児童の指導に熱心に取り組んでいる姿がうかがえる。 <p>2 学校運営の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は活気があり、明るく生き生きとした雰囲気がある」の項目は、すべての評価対象で90%を超えている。縦割り班活動や学年行事等の様々な活動を通して、一人一人が生き生きと活動できるような場を設定したことが、活気ある学校生活につながった。 ・「教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」については課題がみられるため、日課表の改善を含め、今後も業務の改善に向けてさらに検討していく必要がある。 ・土曜授業での企業や地域を招いての授業も回数を重ね、理解や周知をさらに徹底してきた。今後とも地域協議会の学校教育支援部会と連携し、各種ボランティア等を活用した学習や地域の文化施設を積極的に活用した授業を、計画的・継続的に実施していく。 <p>3 教育活動の状況</p> <p>①生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ・いじめ・不登校・規範意識・思いやり・自己有用感など各項目で達成状況を見ると、全体的に9割以上達成されている。 ・「あいさつ」に関する肯定的回答率は、教職員、児童とも90%以上である。保護者は83%であるがH29年度は72%、H30年度は76%と肯定的回答率は高くなってきている。校内の児童の様子を見るとあいさつの習慣は、どの学年の児童もよく身に付いている。今後も地域や家庭と連携を取りながら、児童が誰に対しても気持ちのよいあいさつができるよう指導を継続していきたい。 ・「規範意識」に関する肯定的回答率も、教職員、児童とも90%以上である。教職員も児童もH30年度と比較して4%程度
--

肯定的回答率が上昇している。また、「ほめて伸ばす指導（児童の自己有用感の醸成）」に関する肯定割合も、全体的に見て90%を達成している。ルールやマナーの意味を理解し、ルールを守りながら自分のことも周りのことも大切にできる児童の育成に今後も全校体制で努めるとともに、児童の頑張りやよさをよく見取り称賛することで、一人一人の児童が学校生活の中で意欲や自己有用感を高められるよう取り組んでいきたい。

- ・「いじめが許されない行為であることの指導」に関する肯定的回答は、教職員や地域住民は100%、児童は99%と高い達成状況である。今後も全教職員で一人一人の児童理解に努め、学校全体の組織的ないじめ対策を推進し、いじめ撲滅に向け十分に取り組んでいきたい。

②健康・体力

- ・「健康や安全」に関する肯定的回答率は教職員・児童・地域は90%を上回っている。休み時間等、外に出て、進んで運動に親しんでいる。更に体力の向上が図れるよう、給食指導の充実や教科体育の授業改善に努め、推進していく。また、安全・防災教育では、実践的な訓練により児童の安全意識が向上した。今後とも、登下校時の安全指導や防災訓練を各団体と連携して取り組んでいく。

③学力

- ・「児童の授業に対する主体的な取組」、「分かりやすいきめ細やかな指導」で、保護者・児童とも昨年度と同様、または昨年度を上回っている。ねらいを明確にした授業づくり、課題提示の工夫、ねらいに即した振り返りの実施等により、学習内容の定着、学力向上にさらに努めていく。
- ・「英語を使つてのコミュニケーション」で、児童の評価が94.7%と市の評価を上回った。外国語に関する校内研修を進めてきた成果が表れている。
- ・「ICT 機器や図書等の整備・活用」で、児童の評価は87.1%と市の評価を上回っているが、保護者の評価が低い。授業の中で活用されている様子を授業参観で見せたり、各種便り等で周知したりしていく必要がある。

④本校の特色

- ・「安全な登下校」については、地域住民の評価は92.3%で昨年の92.6%とほぼ同程度の肯定的回答であった。児童の評価も96.5%で安全を意識して登下校している様子が伺える。今後も学年下校や集団下校において安全指導を継続し、地域各団体やPTAと連携しながら安全指導に取り組んでいく。
- ・「地域や学校のために積極的に働く」の児童の評価は84.2%で昨年度の87.0%をわずかに下回っている。日常の清掃活動や「クリーン活動」や「愛校の日」に各自がめあてを持って取り組むことで、学校や地域のために活動しているという意識付けを図っていききたい。
- ・「読書活動の充実」については、児童の評価は64.8%で、昨年よりも8%ほど下回っている。年度前半に図書室開館が十分にできなかったことも影響している。また、児童の読書活動の捉え方を広げる支援があると肯定的回答が得られると思われる。今後も、図書室の活用や朝の読書タイム、読み聞かせ、お話し会、学校図書館司書の活用や調べ学習などを通して本の有効活用をさらに進めていく。
- ・「ほめて伸ばす指導」についての児童の評価は93.2%、保護者評価も89.3%で、昨年度とほぼ同程度の肯定的回答だった。教職員の児童に寄り添う指導が伝わっている。今後とも、まごころカードや帰りの会での称賛、良さを認めた言葉かけなど、児童を認め励まし、自己有用感や自己肯定感の育成を目指す指導に努めていく。

7 学校関係者評価

- ・評価項目が変わった中で、市全体と比較しても肯定的回答が多い状況が見られて良かった。
- ・教員の働き方については、早く帰る意識を高めることが求められる。遅い時間に職員室だけでなく、電灯が校舎で点在してついていることがある。仕事内容が増えていることも理解している。業務の軽減化を図りながら健康に気を付けて勤務してほしい。
- ・宇都宮の良さを知ることが必要だが、自分の住んでいる地域のことももっと知ることが必要だと考える。地域を知る学習も大切にしてほしい。
- ・放課後に子どもの活動支援をしていると、体力について個人差があることを感じる。運動している子どもと運動しない子供とで二極化している。学校活動の中で、運動に触れる機会をつくる取組は続けてほしい。
- ・今までも、ICTを活用した授業は行われている。タブレットの導入により更に活用した学習になることを期待する。
- ・読書や安全など多くの場面で多人数のボランティアが学校に関わり、学習支援や環境整備に尽力してくれている。活動の支援を続けながら、学校と地域の関わりを深めていく。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・今年度は29目中、25項目で指標を達成できたので、次年度も各取組を継続することで、より確実に達成できることを目指していく。
- ・タブレット導入に伴うICT機器の活用を進めながら、学習環境や生活環境を整えて、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細やかな指導の推進に努める。また、次年度も引き続き外国語の研修に取り組み、英語を用いたコミュニケーション力を高めていく。
- ・学校周辺施設の地域教材を活用したり、地域と連携を図った授業を展開したりしながら、よりよい児童の育成に取り組んでいく。
- ・教育相談やアンケートの実施を通して、いじめや不登校傾向の早期発見・早期対応に努め、学校全体の共有化を図って組織的な取組を推進していく。
- ・本校の特色である、「ほめて伸ばす指導」の充実に努め、児童の自己有用感を高める指導の推進を図る。
- ・クリーン活動等にめあてをもって取り組ませることで、地域や学校のために働いているという意識を高め、人の役に立つ喜びを感じられるようにする。
- ・地域学校園の指導方針に基づき、小中で一貫した取組を行うとともに、保護者や地域とも連携し活動の充実に努める。また、取組の内容については、周知に努める。